



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2026年(令和8年)10月15日号 No.2037

目次

■ 2026年上半期のロシア極東港湾の貨物量	1
■ 統計速報	8
2026年1～8月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／8	
2026年1～8月の日ロ貿易／9	
■ キーパーソン	12
ウズベキスタンで教育・科学相兼任の第一副首相就任／12	
■ エトセトラ	12
「アゼルバイジャン・ビジネスプレゼンテーション」開催のご案内／12	
■ トピックス	13
日本政府、対ロ輸出禁止対象に102品目追加／13	
DAISO、ジョージアに初出店／13	
EU、過去最大規模の対ロ制裁を追加／14	

2026年上半期のロシア極東港湾の貨物量

解説

経済速報2026年10月5日号(No.2036)では、ロシア港湾の取扱貨物量の2026年上半期の実績を紹介した。今回はロシア極東港湾の実績を図表にまとめてお届けする。

2026年上半期のロシア極東港湾(サハ共和国およびチュコト自治管区を除く)の取扱貨物量は1億3,269万tで、前年同期と比べて11.8%増加した。このうち、ドライカーゴが8,887万t(+13.4%)、液体カーゴが4,382万t(+8.6%)と、いずれも前年同期を上回った。

極東港湾の貨物量は、ロシアのウクライナ侵攻開始後の2022年も、2023年も増加を続けたが、2024年には制裁の影響などを受け前年を下回った。一方、2025年はロシア全体の港湾取扱量が減少する中、石炭積み出し能力の拡大などを背景に極東港湾だけが増加した。

2026年上半期は、従来からの対アジア貿易シフトに加え、ロシア西部および南部へのウクライナのドローン攻撃激化や中東情勢の緊迫化の影響も相まって、取扱貨物量が大きく伸びた。

ドライカーゴでは、石炭が6,775万t(+17.7%)、コンテナが1,281万t(+6.6%)、鉱石が152万t(+23.0%)、穀物が74万t(+37.2%)、非鉄金属が66万t(+25.0%)、魚・水産加工品が33万t(+4.5%)などと増加した。一方、鉄鋼は81万t(-46.4%)、梱包貨物は75万t(-11.8%)、木材は45万t(-15.3%)、RORO貨物は9万t(-71.4%)と減少が目立った。

液体カーゴは、原油が3,082万t(+8.7%)、石油製品が728万t(+14.8%)、液化ガスが532万t